

# 令和 8 年 1 月～3 月 地域経済動向調査まとめ

## ① 長野県産業労働部「景気動向調査（令和 8 年 4 月分）」

### （1）総括

長野県経済は、中東情勢の影響等によるエネルギー・原材料価格の高騰などにより依然として厳しい状況が続いているものの、一部で持ち直しの動きがみられるとされています。製造業では電機・電子や一般機械を中心に AI 向け半導体関連の受注・生産が増加し、業況は改善。一方、非製造業では観光需要や IT 投資需要が堅調なものの、原材料費・エネルギーコスト・人件費の上昇により、建設業、卸売業、飲食業などで厳しい状況が続いています。

### （2）製造業

- ・電機・電子、半導体関連、一般機械などで受注・生産が持ち直し。特に AI 向け半導体関連が好調。
- ・一方、自動車部品は EV 化の鈍化等により低調。
- ・製造業の業況 DI は 8.8 となり、前回の△10.9 から大幅に改善。18 期ぶりにプラス水準となりました。
- ・今後については、中東情勢による原材料・エネルギー価格の上昇や供給不安などへの警戒感が強く、先行き DI は△10.8 と悪化が見込まれています。

### （3）非製造業

- ・国内客を中心とする観光需要や DX・省力化に向けた IT 投資需要は堅調で、宿泊業、情報サービス業はプラス水準。
- ・一方、建設業、卸売業、飲食業ではコスト上昇等により業況が悪化。非製造業全体の業況 DI は\*\*△19.7\*\*で、4 期連続のマイナス。
- ・建設業では資材価格高騰に加え、資材不足や工期遅延への懸念もあり、先行きは厳しい見通しとなっています。

## ② 関東財務局長野財務事務所「県内経済情勢報告書（令和 8 年 4 月）」

### （1）総括

県内経済は、\*\*「持ち直している」\*\*との判断が維持されています。個人消費は緩やかに回復しつつある一方、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっており、雇用情勢は足踏み状態となっています。

### （2）主な項目別動向

- ・個人消費：百貨店・スーパー、コンビニ、家電量販店、ドラッグストア等が前年を上回り、飲食・宿泊も緩やかに回復。高価格帯商品の需要や宿泊単価の上昇などもみられます。
- ・生産活動：電子部品・デバイス、電気機械、情報通信機械等が上昇する一方、汎用・生産用機械、食料品などは下降。
- ・雇用：有効求人倍率や新規求人数は弱含んでいるものの、人手不足を感じる企業は依然として多く、AI・OCR の活用や待遇改善など、生産性向上への取組が進められています。
- ・企業収益：令和 7 年度は全産業で経常利益が前年比 14.5%減益見込み。特に製造業は 19.6%の減益見込み。
- ・設備投資：令和 7 年度は全産業で 6.2%増加見込み。非製造業では 17.6%増加見込み。

### ③ 飯田信用金庫「飯伊地区産業経済動向」2026年1月・2月・3月

#### (1) 1月の動向

- ・製造業の景況 DI は 0.0 と前月から悪化したものの、電機・精密・光学や半導体関連では回復への期待がみられました。
- ・商業・サービス業の景況 DI は\*\*△41.7\*\*と大幅に悪化。特に宿泊業を中心に景況感悪化の声が多く聞かれました。
- ・建設業では公共工事の発注額が前年を下回り、住宅着工も前年割れとなりました。
- ・人手不足、原材料価格上昇などが引き続き地域企業の経営課題となっています。

#### (2) 2月の動向

- ・製造業の景況 DI は 16.1 へ改善。電機・精密・光学、半導体関連で景況感が改善し、AI サーバー向けなどの需要増加がみられました。
- ・商業・サービス業は DI\*\*△40.0 と低水準ながら、前月から小幅改善。小売・飲食・宿泊では物価高や消費者の節約志向が課題となっています。
- ・公共工事の発注額は前年同月比 60.1%増となりましたが、住宅着工戸数は前年同月比 53%減\*\*と大幅に減少。
- ・水素エネルギーについては、地域企業の関心が高まっており、将来の新たな事業機会として注目されます。

#### (3) 3月の動向

- ・製造業の景況 DI は 40.0 まで大幅に改善。機械製造、食品製造等で景況感好転の声が増え、電機・精密・光学、半導体関連では受注・販売の増加がみられました。
- ・一方、中東情勢を背景とした原材料価格上昇や供給不安への懸念が強まっています。
- ・商業・サービス業の景況 DI は 6.3 と、前月の△40.0 から大幅に改善。小売、卸売、飲食、宿泊など幅広い分野で売上増加の声が聞かれました。
- ・建設業では公共工事発注額が前年同月比 15.7%増となった一方、住宅着工戸数は前年同月比 53%減。人材不足や資材価格上昇が引き続き課題となっています。

~~~~~

### ☆総合的な景気判断

長野県全体では、個人消費や製造業を中心に持ち直しの動きがみられ、飯伊地域でも製造業や商業・サービス業の景況感が改善しています。一方で、原材料・エネルギー価格の上昇、人件費の増加、人手不足、中東情勢等による先行き不透明感が企業経営の重しとなっています。

特に飯伊地域では、1月の景況悪化から2月、3月にかけて製造業や商業・サービス業の景況感が大きく改善しており、地域経済には回復の兆しがみられます。一方、消費者の節約志向や住宅需要の低迷、資材・燃料価格の上昇、人材確保の難しさなど、売上増加を利益につなげる上での課題は残っています。

今後、小規模事業者においては、原材料・エネルギー価格等のコスト変動を踏まえた適正な価格設定・価格転嫁、人手不足を補う省力化・デジタル化、新たな需要を取り込む商品・サービス開発、地域資源や観光需要を活用した販路開拓などへの取組が重要と考えられます。